

令和元年上半期 火災・救急・救助統計
(令和元年7月5日時点 速報値)



火 災

出火原因1位は「たき火」

上半期に発生した火災は79件で、昨年同時期と比較すると6件増加し、うち住宅火災は7件増加しました。出火原因の1位は「たき火（約20%）」でした。たき火を行った際は後始末をきちんと行い、風の強いときには自粛しましょう。また、「こんろ」が原因の住宅火災が4件（住宅火災の約18%）ありました。火の取り扱いに十分注意するとともに、住宅用火災警報器を設置及び適正に維持しましょう。

火災概況

▲は減を示す

区分		令和元年上半期	前年上半期	比 較
火災件数合計（件）		79	73	6
火災種別（件）	建物火災	37	31	6
	うち住宅火災	22	15	7
	林野火災	4	3	1
	車両火災	6	3	3
	その他の火災	32	36	▲4
死者（人）		2	1	1
負傷者（人）		8	5	3

出火原因

単位は件▲は減を示す

出火原因	令和元年上半期		前年上半期		比 較	
	全体	住宅	全体	住宅	全体	住宅
たばこ	4	3	7	5	▲3	▲2
こんろ	5	4	4	4	1	0
炉	1	0	0	0	1	0
焼却炉	1	0	0	0	1	0
ストーブ	3	3	1	1	2	2
ボイラー	0	0	1	1	▲1	▲1
排気管	0	0	1	0	▲1	0
電気装置	3	0	2	0	1	0
電気機器	0	0	1	0	▲1	0
電灯・電話等の配線	2	0	4	0	▲2	0
配線器具	6	4	2	0	4	4
火あそび	0	0	2	0	▲2	0
マッチ・ライター	0	0	1	0	▲1	0
たき火	16	0	20	1	▲4	▲1
溶接機・切断機	1	0	2	0	▲1	0
灯火	2	2	0	0	2	2
火入れ	3	0	2	1	1	▲1
放火	3	1	1	0	2	1
放火の疑い	12	3	7	0	5	3
取灰	0	0	0	0	0	0
その他	4	1	5	0	▲1	1
不明・調査中	13	1	10	2	3	▲1
合計	79	22	73	15	6	7

救 急

軽症患者が全体の約半数

上半期に発生した救急出動件数は7,931件でした。事故種別では急病が5,008件と最も多く、全体の約63%を占め、次いで一般負傷が1,253件（約16%）、交通事故が616件（約8%）でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は13件増加し、搬送人員は20人増加しました。

また、搬送人員全体の約49%（3,563人）が軽症患者でした。軽いけがや病気（擦り傷、歯痛、風邪など）の場合などは、自家用車やタクシーなどでかかりつけの病院へ行きましょう。それが、本当に救急車を必要としている尊い命を救うことになります。救急車の適正利用にご協力をお願いします。

救急概況

▲は減を示す

区 分		令和元年上半期	前年上半期	比 較
出 動 件 数 （ 件 ）		7,931	7,918	13
事 故 種 別 （ 件 ）	急 病	5,008	5,087	▲79
	一 般	1,253	1,157	96
	交 通 事 故	616	620	▲4
	そ の 他	1,054	1,054	0
搬 送 人 員 （ 人 ）		7,242	7,222	20

救 助

建物等による事故が増加

上半期の救助件数は77件でした。そのうち、交通事故が39件で全体の約51%を占め、次いで建物等による事故が17件、それ以外の事故が21件でした。

建物等による事故は近年増加傾向にあります。その多くは、建物内に居る高齢者に外から呼びかけても応答がない、といった事故内容でした。

気温も上昇する季節です。建物内でも熱中症等に気をつけてください。行楽シーズンの長距離運転や海、川でのレジャーの際は、交通事故や水の事故に注意しましょう。

救助概況

▲は減を示す

区 分		令和元年上半期	前年上半期	比 較
救助件数合計（件）		77	67	10
救 助 種 別 （ 件 ）	交通事故	39	34	5
	水難事故	7	1	6
	機械による事故	2	2	0
	建物等による事故	17	15	2
	上記以外の事故	12	15	▲3

問い合わせ ・火災 予防課 ☎254-0356 FAX 256-7755
 ・救急 消防救急課 ☎254-1600 FAX 254-1607
 ・救助 消防救急課 ☎254-1601 FAX 254-1607